



日本の滝百選の一つ 米子大瀑布

©いわもとぶろ

須高保護だより

第7号

平成30年3月1日
発行 須高地区保護司会
編集総務部

更生保護の取り組み

長野保護観察所長 依田 秀行



須高地区保護司の皆様におかれましては、平素から、保護観察、生活環境調整、犯罪予防活動など更生保護の諸活動に対し、多大な御尽力をいただいておりますことに篤く御礼申し上げます。

さて、二〇二〇年東京五輪を控え、再犯防止が国の重要な課題となつている現在、様々な再犯防止施策が実施されています。私たち更生保護においても追い風となつて再犯防止の取組を進めているところです。

先ずは、一昨年施行となつた、いわゆる再犯防止推進法です。再犯防止が国だけではなく、地方公共団体等と連携した取組を進めることとなりました。

例えば、就労支援、住居の確保、保

護司の基盤整備や社会を明るくする運動等、さらに地方公共団体と連携した施策があります。特に、今年はサポー

トセンター設置が重要課題となり、こ

れらの課題に対して、地区保護司会の皆様と連携して、地方公共団体に協力

を求めていくことが必要になります。

また、刑の一部の執行猶予の主な対象となる薬物事犯者に対して、専門的

処遇プログラムを適切に実施し、また

地域の保健福祉、医療等の関係機関と連携し、長期にわたる薬物事犯者処遇を実施していく必要があります。

このように様々な課題があります

が、保護司の活動が地域社会の安全・

安心に大きく寄与していることを地域の方々に御理解いただきながら、長野県の更生保護の発展、充実に尽くしてまいりますので、須高地区の保護司の皆様方の御支援と御協力を賜りますよう

うお願い申し上げます。

須高地区保護司会

会長 竹前 郷史



昭和から平成と、
めまぐるしいスピーチ
で世相は変化し社
会情勢は大きく変わ
り、薬物使用・高齢犯罪者・精神障害者・再犯の低年齢化・子供が犠牲になる痛ましい事件・無差別殺傷事件が、あとを絶たない状況等テレビ新聞等で報道されています。特に須高地区に於いては、地域の安全や再犯防止に取り組む中で、長野県全体から見れば、犯罪は減少しております。須高地区に於いては特殊詐欺の発生増加傾向にあります。又地域によつて空家が増え犯罪の巣にならなければと、心配し、高齢者の年金生活を狙う方が増え、大変憂慮すべき状況になつております。安全・安心の町作りの計画に沿つて、地域の防犯活動の促進・社会を明るくする運動をはじめ、地域の皆様・関係団体と一緒に、防犯の体制を強化し、安全・安心できる地域社会の実現に力を注いで参りたいと思います。

須高更生保護女性会

会長 関谷 庸子



更女会の活動報告
五月 総会第一回開催
随時役員会
隨時各地区での子育て支援活動(須坂・小布施・高山)

須高地区更生保護協力事業主会

会長 小林 昌之



平成二十年十一月
に発足した当会では、本年には十周年を迎えることになります。

第67回「社会を明るくする運動」作文コンテスト 受賞者

◎県コンテスト

- ◆小学生の部
- ▽優秀賞 島田侑奈||栗方丘6
- ◆中学生の部
- ▽優秀賞 神田愛美香||墨坂3
- ▽入選 南澤夏奈香||東3

- ◎須高コンテスト
- ◆小学生の部
- ▽最優秀賞 「みんなのいいところ」島田侑奈||栗方丘6
- ▽優秀賞 「あさひさん」返町夢乃||旭ヶ丘3 「感謝の言葉」青木千洋||仁礼6

雇用は困難であつても主旨に賛同いたける多くの事業主の協力により、会費を徴収しての運営をして参りました。総会の開催では、会員の参加が少ないことは残念ではありますが、保護司会・女性会のご協力により充実した事業となつてきました。

保 護 よ り だ よ り

り、薬物使用・高齢犯罪者・精神障害者・再犯の低年齢化・子供が犠牲になる痛ましい事件・無差別殺傷事件が、あとを絶たない状況等テレビ新聞等で報道されています。特に須高地区に於いては、地域の安全や再犯防止に取り組む中で、長野県全体から見れば、犯罪は減少しております。須高地区に於いては特殊詐欺の発生増加傾向にあります。又地域によつて空家が増え犯罪の巣にならなければと、心配し、高齢者の年金生活を狙う方が増え、大変憂慮すべき状況になつております。安全・安心の町作りの計画に沿つて、地域の防犯活動の促進・社会を明るくする運動をはじめ、地域の皆様・関係団体と一緒に、防犯の体制を強化し、安全・安心できる地域社会の実現に力を注いで参りたいと思います。

九月 リーダー研修会(県更女主催)
○社会を明るくする運動作文コンテスト審査会への協力

十月 日帰り研修旅行群馬・榛名女子学園及び富岡製糸場見学 三十一名
参加

十一月 長野刑務所運動会協力及び信州矯正展への協力
○保護司・更女・BBS連携強化研修

主旨にある雇用の受入れに関しては、「長野保護観察所」に登録される「協力雇用主名簿」によつてお願いして参りますが、現在のところ半数に満たない登録となつております。登録内容の更新時等に併せ、新規登録にご協力をお願いします。

本年は「県更生保護大会」が、メセナホールで開催されます。事業主会としても、大会の成功に協力させていた

だきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

○県更生保護大会に参加
十一月 県更女会の集い
○諒訪 紅や 参加

十二月～三月 “愛の鉢”座布団ゴマの製作、各保育園に配布

野寧音||高山3
奈香||東3
▽佳作 岡山楓||常盤1 越愛叶||墨坂3 市川大祐||東3 鶴田真優
○小布施1 藤澤美稀||高山3 鶯

(3) 平成30年3月1日

より だ 保 保 須

第67回「社会を明るくする運動」

県・須高地区作文コンテスト

平成29年度、県・須高地区作文コンテストが実施されました。表彰式が行われました。県作文コンテストでは優秀賞に島田侑奈さん（栗方丘小6）、神田愛美香（墨坂中3）が受賞されました。今年度は島田侑奈さんと宮川彩音さん、神田愛美香さんの作文を紹介します。

29年度須高作文コンテスト小学生の部最優秀賞
みんなのいいところ

栗方丘小学校六年

島田 侑奈 ゆうな

私のクラスでは、「ハッピーレター」という活動をしています。この活動はクラスの一人を一日中観察して、自分の名前を明かさずに、その人をほめてあげるという活動です。私はこの活動をすることになったとき、名前を明かした方がいいと思いました。

私は、とてもうれしそうでニコニコしていく、私の方までうれしくなり、名前を明かさない意味がわかりました。名前を明かさずに書くと、ふだんあまり話さずにいる男子も「すごいね」や「私もそんなことをできるようにな

りたいよ」と思っている気持ちを素直に伝えられることができるのです。クラスの人のいいところが前よりずっと見つけられるようになりました。そして、前は自分から意見の発表をしなかつた人が、ハッピーレターを始めてから一日に何度も手を挙げていたり、返事をするときの声が小さかつた人が、教室全体にひびく程の大きな声を出していたりと、この一年で、私も私のクラスもすごくたくさん成長したよ

うな気がします。

今まではクラスの人を「あの人は声が大きいし、自分と性格も似ているから接しやすいかも」とか、「あの人は声が小さくて話しかけていいからいい」とど自分で勝手に印象を決めつけていました。ハッピーレターを見た人は、朝、教室に入るとみんなが、「おはよう!」と言つてくれて、毎日学校に行くのが楽しみです。私はクラスのみんなのおかげで、毎日がウキウキ楽しいです。こんなクラスをどんどん増やしたいと



29年度須高作文コンテスト中学生の部最優秀賞

心を救える「言葉」

墨坂中学校二年

宮川 彩音 あやね

思つて、今は全校でこの活動をしています。他のクラスや学年の人のいいところも探して、みんなが笑顔になればうれしいです。始めたときは、私もそんなに書いていませんでした。でも今までクラスで取り組んでいたせいか、他のクラスや学年の人でもいいところすぐ見つけられることができ、全く話すことのなかつた他の学年の友達もたくさんできました。今は学校中に笑っている人が増えています。ずっと静かだったという印象の人も、今はとても元気でたくさん話しています。みんなが私とたくさん遊んでくれて、認めてくれているんだなあとthoughtつてうれしいです。

これから中学校や高校へ行つても、人を出会つたときの印象で決めてしまわぬ、いいところを見つけて友達になります。そして今のクラスの人とも、もつとたくさんいいところを見つけて、もつと仲良くなりたいです。まだ学年の中で話したことのない人がいました。そんな人ともいいところをたくさん見つけて話してみたいと思いま

す。

私は、このハッピーレターの活動を通して、人には必ずいいところがあつて、そのいいところを見つけているのではなく、いいところをたくさん見つけてあげることが大切だということ分かりました。

裁判後、一緒に来て下さっていた検察官の方にお話しを伺った。「検察官は厳しい言葉をあびせる中でも、被告人の更生も願つていて。ただ被告人を攻めているように思えて、人生をやり直して欲しい。もう一度社会に出て、一人の人間として生きてほしい。そんな思いを胸の内に秘めているんだ。」

その裁判は、酒気及び無免許運転の交通違反の初公判だつた。うつむく被告人に厳しい言葉をあびせる検察官。私は、自分を被告人の私と照らし合わせた。「もし、自分があの立場だつたら、過ちを悔やんでも悔やみきれないとも出来ないかもしれない。」そう思つた。今度は、検察官に照らし合わせた。いくら後悔するだろう。立ち直ることも出来ないかもしれない。」そう思つた。

七月初め、私は裁判所へ行つた。それは、職場体験学習の一環だつた。私はそこで初めての経験をした。裁判を傍聴することだ。初めて見る傍聴席からの景色に心をおどらせる気持ちとは裏腹に、何ともいえない緊張感を感じた。

「おつしやつていた。私は、はつとした。「求刑するだけでは、被告人を更生させることはできない。裁判を通じて、被告人に罪の重さを言葉で心に届け、もう一度社会にいる人間としての有り方を考えるよう、うながしているのではないか。」と、当たり前のことだが、今まで全く気が付かなかつたことに、気がつくことができた。

求刑し、被告人を罰することは簡単だ。でも、被告人自身を更生させることはできない。

だが検察官には、被告人を更生させることができる。素晴らしい職業だと思った。

私も、クラスの友達や後輩が過ちや失敗をおかしてしまった時は、攻めて怒つてしまいがちだが、今度どうすれば良いか考えさせ、同じ失敗をしないようにしてあげたい。

そうする人が一人でも増えれば、失敗ばかりしてなかなか進めない道でも、どんどん前に前に進めるだろうし、失敗した人自身も、自分でどうすれば良いか考える力が身に付きどんなこともチャレンジすることができるようになると思う。

犯罪者が身近に潜むこの世の中。でも、犯罪者も一人の人間であることを忘れないでほしい。一つの心を持つた私たちと同じ人間である。人間の心を救えるのは人間だけだ。人間から発せられた言葉によつて、心が動くのだ。そんなことを、裁判を通じて知ることができた。

当たり前だけれど、こんなことを考えて、日々生きている人は少ないと思う。だからこそ自分の「言葉」で伝えたい。

心を救つてくれた言葉

墨坂中学校三年

神田 愛美香

29年度須高作文コンテスト中学生の部優秀賞

私は、吹奏楽部に所属しております。夏休み中に行われた吹奏楽コンクールに出演した私達は、地区大会金賞で県大会出場ができたものの、県大会では銅賞という結果になりました。結果発表の後「こんなに頑張ったのに…どうして…」と、私はホールの外に部員全員で集合するまでも、ずっとそんなことを考えていました。

ホールの外に集合し、部長と副部長が一言ずつ、皆に向けて話すことになりました。皆は「楽しかった」「満足する演奏が出来た」と言つていました。私も本番はとても楽しかつたと感じました。まぶしいスポットライトを浴びて、大勢の人の前で、大好きな仲間と「自分達の音樂」を奏でられて、私はとても幸せでした。けれど私は、銅賞という結果が、とても悔しかつたです。自分達の今までの頑張りが、銅賞レベルだと言われている気がして、悲しくて、すごく悔しかつたです。私が皆の前で何を話したかあまりよく覚えていませんが、話している途中で言葉がつまり、涙が出てきたのは覚えています。一人だけ泣いてしまい、皆の感情と違う感情を持つた私が、皆にどう思われるのか不安でした。けれど想像もしていなかつたことを顧問の先生が話してくれました。

「さつき愛美香が泣いていたけれど、

すると先生は、「うん。すごく楽しかったよ。今までのお前達の中で一番良かつたんじやないかな?」と言つてくださいました。いつものような笑顔で、私の心のモヤモヤを消してくれました。「つらいコンクールの思い出」となる出来事が、先生の言葉で「楽しかったコンクールの思い出」になり、同時に私の心を救つてくれました。

人と話すのが苦手な私にとって、先生は部活動の一環でしかないコンクールについて、私達のためを思い、とても熱く語り、人の気持ちを変えられるような言葉をかけられるなんてすごいなと改めて尊敬しました。私は上手く言葉で自分の気持ちや思つてること

私は、このコンクールが中学最後のコンクールなので、もう終わりだと思っていました。けれど先生の言葉で、まだ残されたステージを最高のものにするために、今よりも努力していくとthoughtしました。しかし、一つだけ疑問が残っていました。私達は楽しく演奏ができたけれど、先生は楽しく指揮ができたのだろうかと思いました。私は先生に聞いてみました。

全力でやつた人はこういう時どんな結果でも泣くんだ」と眞面目な口調で話して下さいました。いつもは毒舌で、合奏中指示を出したり、冗談を言つて皆を笑わせたりと、私のあこがれる先生からの言葉が、自分を認めてくれる気がしてとてもうれしかつたです。そして続けて話す先生の言葉が、さらにつまらなくなっていました。私は心を前向きにしてくれました。「今回まだ頑張れた、自分はまだ頑張った人はもつと出来るから、もつとやつてみな。」

私は、私の心を救つてくれた顧問の先生のような人間になりたいです。そして相手のことを思い、気持ちを良い方向に変えられる人が増え、犯罪や非行の少ない地域づくりが進むよう、今から少しづつ自分にできる努力をしていきたいです。

人間は一人では生きていけません。生きていれば辛いことも苦しいこともあります。たくさんあり、そんな人生に疲れていたときは立ち止まりたくなつたり、生きることを投げ出したくなつたりするかもしれません。しかし、誰かが相手のことを思つて声をかけてあげることで、私がそうであったように、また頑張ろうという気持ちが持てると思います。まずは自分ができることを行動に移していきたいと思います。

を表現することができないので、私の心を救つてくれた顧問の先生のように、相手のことを思い、熱く語り、人の心を救うことのできる人間になりたいと強く思います。

私は、まだ分からぬこともあります。私は、まだ分からないこともたくさんあります。人の心を救つたり、変えたりするほどの力はありません。けれど顧問の先生から教えていただきたい、人の心を救つてくれるような言葉と、大好きな仲間との経験を糧に、まずは私と同じ気持ちで苦しんでつらそうな友達や後輩がいたら、すぐに声をかけて少しでもその人の心が楽になるように助けたいです。そして少しずつ心を救う言葉と思いが色々な人に広がっていき、つらくても立ち直る勇気をもつ人や、苦しんでいる人の心を救つたり変えたりする言葉をかけられる人が増えたければ、犯罪や非行が少なくなると信じています。そして、犯罪をしてしまった人も立ち直る勇気を持てるのではないかと思います。

彼と共に歩んだ三年五ヶ月

保護司 齊藤
友吉

介し簡単に今回の事件について再確認しました。第一印象は素直であり、仲の良さそうな母子と感じました。困った時は、私に何でも話して一緒に物事を解決していきましょう。苦しいほど君自身がしつかり考え方を張つて努力してほしい旨を伝えました。次回は、私が往訪しました。母親との同居のせいか室内がよく整頓されていました。以後毎月二回の来訪を励行しました。面接を重ねる中で悩んでいる主な事柄をまとめました。

一つ目は、過去何回かの交通事故（物損事故）の賠償金の支払いのため、勤務先から借りた借金返済。二つ目は、休日が火曜日しかなく職場の携帯電話をいつも持たされ二十四時間管理されている。三つ目は、母親と同居したため生活保護費を打ち切られた。一・二について、主に聞き役に徹しました。

その後、彼は約束した日にちゃんと来てくれました。苦しい生活を知つていましたので、一抹の不安はありませんでしたが、彼の誠実な一面を見ることができ、大層嬉しい忘れられない日になりました。改めてこの三年五ヶ月の自分の報告書を見返しました。反省すべきことが多数あり私自身の未熟さを痛感しました。彼は、生い立ちや家庭環境では、普通でないと思えることが多々あり生きづらさを感じて来たと思われます。今後彼の家庭に幸多かれと切に願い、保護観察期間が終了するまで七ヶ月、私も共に頑張りたいと思っております。

そのまま一ヶ月も過ぎてしまい、主任官に助けを求める、「保護司とこのまま連絡とれなければ、仮釈放にも影響します。」との文章を出して頂きました。それでも家族からは、連絡なし、ようやく私からの電話がつながり、初訪問まで三ヶ月近くかかりました。まづ、連絡をとれる三つ目の携帯番号を教えてもらいました。家族三人との面接では、本人を心配し、早く立ち直るためにミーティングに通わせたい、と依頼され、良い印象を受けた初訪問でした。刑務所にて本人とも面接しました。「早く家に帰りたい。ここには絶

「お願ひします」と五年間の保護観察期間を来訪してくれた女性、家族の協力も大きく終了時には、本人、家族、私も嬉しさで涙ぐむ想いでした。

翌日には、生活環境調整を依頼され書類も届きました。早速、訪問の約束をとる為電話しても呼び出し音のみ。朝昼夜の訪問もしましたが、施錠してあり、電気は灯つていませんが返答なし。電話、訪問を一ヶ月間続けた或る夜、引受人と電話で話す事が出来、ようやく訪問の約束ができました。翌日、家族の一人から保護観察所に「都合が悪いからその日は訪問しないで下さい」と連絡がありました。その後、主任官が確認しておいて下さった携帯に連絡しても全く通じません。

何度も少年院へ面会に行つており、訪問のたびに少年の様子を話して下さいました。仮退院の際は、院の職員、少年、実母との考えがまとまり、少年にとつて一番良い選択として、更生保護施設入所に決まりました。本人の希望で就労に向けてハローワークの職員に相談している様子です。

順調に自宅に戻る事が出来ない二ケースを担当して淋しい気持を味わった私ですが、再犯を繰り返すことの強い不安を抱えている家族の思いも知りま

放は受け入れない 再犯はない気持をもつて刑期満了まで罪を償うよう「」と拒否されました。再度、主任官と訪問しましたが、仮釈放は拒否され、家に戻ることは、出来なく更生保護施設入所となりました。私の担当もここで終りましたが、刑期満了後、家の周りに、季節の花鉢が飾られているのを見ると、元気で生活できていると感じられました。

次に担当した少年の環境調整では、主任官から自宅に電話がなく連絡取りにくいと言われ、又、接触まで時間がかかるのかと懸念しながら、訪問しました。出勤の為玄関を出る実母に会いました。会社へは、遅れると伝えて頂きました。その場で面接できました。実母は

おかえりの心で仕事と居場所を

対戻りません」と泣き続けていました。そして、一年後、仮釈放の通知を持つて家族のもとへ伺ったところ、「仮釈

地区外研修旅行報告

研修部会長 山際 泰子

私達、更生保護女性会の研修旅行は、群馬県に所在する榛名女子学園に行つてまいりました。十四歳以上二十歳までの女子を、収容する国の施設です。園長先生のお話しを一時間ほどお聞き致しました。旧前橋陸軍病院を昭和二十七年に転用し、榛名女子学園として発足し、平成三年から改築工事を行い、平成十二年に全体が改築したそうです。

風俗で働いて、大金を持つようになり、薬物に手を出した子供達が多いそうです。次の子供達の教育育成を行い、社会復帰が図られるように生活指導をし、その内容は問題行動、治療指導の外、介護・コンピュータ・手芸・農園・園芸・各種通信教育・社会貢献活動など退園してからしつかりした生活が出来ると思われるようなお話しの内容でした。

その後、園内を見学させていただきました大きな体育館、プール、きれいなお庭、農園科、手芸科、介護福祉科、中に、身を置ける子供達は、身も心も洗われるのではないかと思わせていました。



最後に、面会室の前を通りました。
五つのお部屋すべて、面会中で驚きました。

第63回 長野県更生保護大会

平成二十九年十月二十日、第六十三回長野県更生保護大会が飯田文化会館において開催されました。式典に先立ち、講師で、前保護司「一龍齋貞花」氏による「ぬくもりのある地域と家庭」と題して、また、講談「更生保護の父・金原明善物語」のお話を聴きました。

金原明善は、静岡県浜松市の出身で、更生保護の先駆者としてまた、川村矯一郎は創始者として知られるこの二人のおかげで、更生保護の基盤が作られたということです。刑務所を出た者を社会の中でしっかりと保護する方法を考えなくてはいけないということを提唱されたお二人だということです。

社会を明るくする運動 「もどらなさい。もどさない」もお二人の意思を継いだと思われます。

続いて顕彰式典が行われ、須高地区からは次の方々が受賞されました。

関東地方更生保護委員会委員長表彰
町田榮司 竹内三男 内山信行
関東地方更生保護委員会委員長感謝状
関谷庸子(更女)
関東地方保護司連盟会長表彰

市川栄子

長野保護観察所長表彰
西原ちえ子

長野県保護司会連合会会長表彰
南澤好夫

受賞者の皆さん

おめでとうございます
第六十四回は、十月十八日(木)メセナホールで開催されます。

あとがき

卷頭言にご寄稿頂きました依田秀行長野保護観察所長に心から感謝を申し上げます。

刑法犯罪事件は、少年を中心にして数年県下や当地区においても、減少傾向にあり、この状況が継続することを願うところであります。

さて、今年は大きな行事であります第六十四回長野県更生保護大会が、当地区で開催されることとなりました。保護司会はもとより、更生保護女性会、更生保護協力事業主会も一丸となつて、この大会を成功裏に開催できますよう、多大のご支援ご協力をお願ひ致します。

(総務部)



次期大会開催地 竹前会長あいさつ